

## 72. ヒノキ挿木について

出水営林署 永吉清光

ヒノキの挿木については以前より研究されて来たところであるが、活着率が悪いのと、一年据置せねばならぬので未だに実用化されていないようである。

昭和25年頃時の鹿屋署の経営課長であった育苗の権位者柿木さんが林地より採穂して(短穂)挿付で日覆灌水管理を行い80%位の活着した。これも2年山出しであった。翌年大々的に(20万本位)鹿屋苗畑に実行されたが今度は天候の都合か全滅であった。その後実

用化としての挿付はされていないようである。小生昭和32年熊本大津苗畑で山行苗の下枝を用いて挿付したが転働のため結果を見る事が出来なかった。今度再び実施する機会を得その結果が良好なので述べて見たいと考えます。

### 1. 方法と経過

床替苗の下枝の芯の出たものを剪定鋏で15~20cm位

第1表 すぎ ひのき 各月挿木試験結果表

40.3. 調べ

挿付		すぎ普通挿			すぎ孫挿			ひのき枝挿			備考	
年	月日	活着	苗長	山行 (据置)	活着	苗長	山行 (据置)	活着	苗長	山行 (据置)		
38	9.10	25	60 40~80	20 (5)	2	22~30	2	70	50 30~70	63 (7)	ひのき 幹重	54g 14g
"	10.10	72	46 38~80	60 (12)	16	30 23~40	3	97	52 30~70	88 (9)	"	40g 12g
"	11.10	95	40 25~60	70 (25)	51	40 36~60	30 (21)	93	48 35~66	86 (7)	"	32g 12g
"	12.10	44	40 35~64		91	38 30~54		72	44 31~53			
39	1.10	53	38 32~61		46	34 28~43		94	40 31~65			
"	2.10	77	37~57		61	24~43		99	38~63			
"	3.10	60	54~78		29	33~49		93	27~59			
"	4.10	59	41~75		20	27~58		92	41~63			
"	5.10	0			6	12~22		89	37~62			
"	6.10	0			22			80	23~44			
"	7.10	1			3			12	13~23			
"	8.10	0			28			76	13~36			
"	9.10	16			5			77				
"	10.10	26			33			98				
"	11.10	60			6			84				
"	12.10	84			29			59				
40	1.10	95			10			72				
"	2.10	—			—			90				
"	3.10	—			—			100				

備考

1. 挿付は毎月10日に実施した。
2. すぎ普通挿は採穂林よりの採穂である。
3. すぎ孫挿とは2~3月挿付した枝からとつたもの。
4. 活着とは枯れないで発根、成長しているもの。
5. 100本宛挿付したので%と読み替えて良い。

に切落し下葉を6~8cm位ですぎ落す。挿付はすぎ挿付に準じて鋤で下葉が1.2葉土に埋まる程度さし付する。日覆・灌水は不用である。1ヶ月位で切口及全面から発根するので2ヶ月目から尿素、過磷酸等の追肥を始める。

其の後は床替苗に準じて管理する。採穂、穂作は床替苗からの場合は一日1,500本程度、山出苗、選苗の時は2,000本はとれる。さし付は一人一日1,500~2,000本程度ですぎさし木と変らない。

2. 成果と結論

イ. 別表第1表の通りの結果で39年の7月12月を除いて全部70%以上の活着率で、すぎと異なり殆ど各月挿木可能である。

ロ. 挿穂は何時でも苗畑内にある。4、5、6月が少

第4表 実用化試験集計

苗長	本数	%	備考	枯損歩止	山出歩止	備考
枯損	220	4%		4% 220本	1,465本	1年 据置
13~29	1,245	22%	山出不合		26%	
30~39	3,037	54%	山出可	5,402本		
40~49	1,076	19%	"	96%	4,157本	
50~59	44	1%	"		74%	
計	5,622	100		5,622本 100%		

第5表 蒔付苗との比較表

樹種	種別	細別	苗長平均	根重平均	幹重平均	全重平均	枯損歩止
ひのき	まき付苗	秋期床替	40.14	5.20	26.22	31.42	97.63%
"	"	年度末床替	30.92	4.22	14.69	18.91	83.66%
"	さし木苗	秋期挿	33.98	6.12	22.34	28.46	96.08%
計							

第6表 (イ) ひのき挿木工程表 (40年10月実施)

作業種	人夫数	数量	1日 1人工程	1,000本 当	備考
採穂	40	50,000	1,250本	0.80人	穂作を 含む
さし付 (ねり種)	13	22,500	1,730本	0.58人	
(普通挿)	6	16,000	2,670本	0.37人	機械堀 取可
2条普通挿	2	5,900	2,950本	0.34人	
2条ねり挿	2	5,900	2,950本	0.34人	
計					

(ロ) 1000本 当諸経費

作業種	人夫数	1日 賃金	経費	除草 其他	計	備考
ねり床挿	1.38人	500	690	761	1,451	除の実 草き續 其床原 の替価 他のも では苗 あひ畑
普通床挿	1.17人	"	585	"	1,346	
2条普通挿	1.14人	"	570	"	1,331	
2条ねり挿	1.14人	"	570	"	1,331	
計						

1本当40年度ひのき山苗予定原価は当苗畑で4.47円で、さし木苗では1.3円~1.5円で、実生苗の半減で生産出来る事になり別表の通り39年度実用化試験地の山出歩止は74%であるからこれに乗じて1.64~1.89円で、何れにしてもまき付床替苗の半分以下である事は間違いない。

ないが、ヒノキ2回床替苗を使用すれば良い。一番多いのは1、2、3月の堀取時に選苗を兼ねて採穂すれば一番安上りである。

ハ. 発根量が心配であったが堀取って見ると床替苗と変りなく切口のみならず全面より発根している。

ニ. 年中実行可能であるが、2年山出しでは実生苗と同じ事になる。然るに別表の如く9、10月の挿付は翌々年3月山出しが出来労働雇用関係上からも都合が良いものと思われる。2年据置するとすれば4、5、6月が適当と思われるが、1~3月の一番採穂の容易な時には翌年山出しは小さすぎ2年据置すれば大きくなり過ぎはんばとなる。

ホ. さし付は6~8cm程度の浅さしであるので機械堀取、根切作業も床替苗に準じて出来る。2年据置で成長する。条挿すれば機械根切が考えられるので本年度実施して見たい。(第6表) 尚ねり挿(水さし)すれば一増活着率も良く人工数も少なくて出来るので研究して見たい(第6表)

ヘ. ヒノキ結実が少ない年にはさし木で補充が可能である。

ト. 39年10月実用化試験の結果は別表(3、4、5表)の通りで、まき付苗と何等変らない。

チ. 40年10月事業化作業として50,000本実施した。その工程生産原価は(6表)の通りである。